



テーマ	No. 15 身近な生き物たち		
	数が減っている生き物や外国からやってきた生き物について考えよう。		
ねらい	身近なところで生息・生育している生き物や希少野生生物、外来生物に関する知識と理解を深め、児童たちに身近な自然への興味・関心を抱かせ、生物多様性や自然保護を考えるきっかけにします。		
対象者	小学校1年生～6年生	人数	40人程度まで
実施場所	教室(オンライン実施可)	時間	1時限
学校の準備物	パワーポイント投影の準備(プロジェクター、スクリーン、HDMIケーブル)		
アピールポイント	体験に基づき身近にみられる生き物を中心に授業を進め、周辺の自然の魅力を再発見しながら、楽しく学ぶことができます。		
関連するSDGs	 		

プログラムの進め方

【導入】

「家や学校、公園のまわりでどんな生き物を見たことがありますか」
「減っている生き物と増えている生き物について考えてみましょう」

【展開】

- ①身近な生き物についてクイズ形式で学ぼう。
- ②県内の希少野生生物や外来生物についてクイズ形式で学ぼう。

【まとめ】

○授業を聞いて生物多様性への理解を深めるとともに、
身近な自然を保護していくためにどんなことができるのか考えてみよう。

みじかなところには、たくさんの
いきものがすんでいる



ふえているいきもの
(がいらいしゅ)



もともとにほんに
いなかったいきもの



もともとにほんにいた
いきものをたべたり、
すみをうばったりしている。

